

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 教授	氏名 石黒 敏明	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
休暇中の課題として英語スピーチの作成と副読本の要約を課す	2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：基礎演習) 夏休みには英語の3分間スピーチを作成することを課し、冬休みには語彙が制限されている副読本を一冊読みその要約を提出させた。それらの課題は、聞く・話す・読む・書くスキルを伸ばす授業の強化策として学生に与えた。	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：英語教育学概論) 平成20年度前期授業評価アンケート評価を受け、学生による授業内容の理解を容易にするため、講義ではプリントを配布し重要概念の理解をさせ、イタリック体を読めない学生のために板書の際は活字体にするように努め、さらに教科書も採用し講義後に次週の予習箇所を示すように努めた。	
英語によるスピーチの採用	2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：教科教育法I：英語) 受講生の英語能力向上と英語教授法の実施例の一つとして、英語のスピーチ作成・校正・発表の体験をクラスで試行した。校正段階では他人のスピーチを校正させ、それを受け取った学生は次週までその提案を考慮して自分のスピーチを訂正させ提出させた。スピーチ発表後は、聴衆の学生に発表者の優れていた点や改良すべき点を述べさせた。	
2 作成した教科書、教材			
時事英語を活用した授業サポート	2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：基礎演習) 英語英文学科一年のクラス指定で開講されている演習で、基本的能力である聞く・話す・読む・書くの技量を高めるクラスである。・A組からD組までそれぞれ半分にし、私はその一つのグループ26名の学生を担当した際、聞く能力と読む能力の向上のため、1) NHK多重放送の英語ニュースを活用し、Cloze Testを教材の一部として作成した。また、2) 同じニュース記事をthe Japan Timesから引用し、口頭英語と文字英語との比較も試みた。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
学生による授業評価アンケート結果	2008年 9月 1日 ～現在に至る	(授業科目：英語教育学概論) 学生による授業評価アンケートにおいて、「授業に対する興味関心および教員に熱意を感じた」という評価項目で良い評価を得た。	

4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『イチロー君、大学で 何を体験した?』	単著	2011年 2月	(リトル・ガリヴァー社)		186頁
論文					
簡素化使用域としての 「野球トーク」(復刻 版)	単著	2010年 6月	『英語学論説資料 第4 2号 第1分冊 (語用 論)』(論説資料保存会)		798 - 819頁
外国語教授法の歴史か ら学ぶ -これからの 英語教育で何が必要か-	単著	2013年11月	神奈川大学教育・心理研 究論集 (第34号)		pp. 17 - 34. 頁
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
		個人研究 第二言語習得と喪失			
1972年～現在に至る		日本音声学会(国内学会)会員			
1972年～現在に至る		語学ラボラトリー学会会員			
1977年～現在に至る		大学英語教育学会会員			
1982年～現在に至る		日本英語学会(国内学会)会員			
1996年 3月～現在に至る		TESOL学会会員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 教授	氏名 山口 ヨシ子	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『<悪女>と<良女> の身体表象』	共著	2012年 2月	(青弓社)	編者笠間千浪他 4名	
『ダイヤモンドのアメリカ 大衆小説の文化史』	単著	2013年10月	(彩流社)		
論文					
ダイヤモンドの戦略 ースティーブズ『マ ラエスカ』とエリス『 セス・ジョーンズ』を 中心に	単著	2011年 1月	『英文學研究』 (3)		379-383頁

ダイムノヴェルと探偵小説ーヴィクター『配達されない手紙』『フィギュア・エイト』	単著	2011年 3月	神奈川大学『人文研究』173		5-46頁
無法者のヒーローと男装のヒロインーウィーラー「デッドウッド・ディック」シリーズ	単著	2012年 9月	神奈川大学『人文研究』(177)		1-58頁
SFダイムノヴェルーテクノロジー、冒険、帝国主義	単著	2013年 8月	『神奈川大学 人文学研究所報』(50)		11-40頁
その他					
「作家の立ち位置 『アンクル・トム的小屋』の場合」実験的俳句集団「鬼」15周年記念シンポジウム 基調講演		2011年 5月	(横浜)		
「鬼」十五周年記念シンポジウム 作者の立ち位置	単著	2011年11月	『鬼』27		84-117頁
奴隷制擁護の小説とマミーの身体ー「反アンクル・トム小説」から『風と共に去りぬ』	単著	2012年 7月	津田塾大学言語文化研究所		
SFダイムノヴェルにおけるテクノロジー、冒険、帝国主義ー『アーサー王宮廷のヤンキー』との比較において	単著	2013年 7月	津田塾大学言語文化研究所		
ダイムノヴェルの魅力	単著	2013年11月	彩流社 彩流社 ホームページ ほんのヒトコト		
反転する自然主義ー19世紀大衆小説とSister Carrie	単著	2014年 5月	日本アメリカ文学会東京支部例会		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
年月	内容
1982年 4月～現在に至る	津田塾大学大学院英文学会(国内学会)会員
1986年 4月～現在に至る	日本アメリカ文学会(国内学会)会員
1986年 4月～現在に至る	日本英文学会(国内学会)会員
1987年 4月～現在に至る	日本ナサニエル・ホーソン協会 会員
1987年 4月～現在に至る	日本ナサニエル・ホーソン協会(国内学会)会員
1996年 3月～現在に至る	Modern Language Association of America 会員
1996年 3月～現在に至る	MLA(国際学会)会員
1996年 7月～現在に至る	米国Edith Wharton Society 会員
1997年 7月～現在に至る	イーディス・ウォートン協会(国際学会)会員
1998年 4月～現在に至る	国内共同研究(津田塾大学言語文化研究所)アメリカ文学における女性像
2002年 4月～現在に至る	個人研究 19世紀アメリカ大衆小説
2007年 9月～現在に至る	日本ポー学会(国内学会)会員
2008年 4月～現在に至る	アメリカ学会(国内学会)会員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 教授	氏名 高橋 一幸	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
英語教員養成シラバス (Can-do リスト) の作成		2009年 4月 1日 ～2011年11月15日	英語英文学科移籍に伴い、ゼミと教科教育法等の授業を通じた学部2年～4次の3年計画での中・高英語教員養成の指導シラバス試案を作成、2010年度からは大学院の講義・演習も加え、実践を通して改良を図り、2011年11月15日刊行の著書『成長する英語教師』(大修館書店)に掲載した。
1年次新科目「英語教育学入門」の新設と学部4年間を見通した科目間連携の英語教員養成シラバスの再構築		2014年 4月 1日 ～2014年 7月31日	2014年度のカリキュラム改編に伴い、過去、英語英文学科のカリキュラムの中で、専任教員の指導による英語教育科目の空白学年であった1年次の前期に「英語教育学入門」(1年次前期)を新設して担当。教職科目の「教科教育法(英語)」や、学科科目の「児童英語教育」、「教員養成のための英語か教育研究ゼミナール」(「基礎研究」、「専門研究」、「卒業論文」)などの他の英語教育学関連科目との連携を図って指導内容を再構成し、1年次から4年時までの系統性を持った学部教育における英語教員養成シラバスを再構築した。
2 作成した教科書、教材			
3年時「専門研究」の教員養成のための教材開発：「指導案分析演習」(全8コマ分)		2010年 4月 1日 ～2011年 3月31日	3年時の学科ゼミ「専門研究」前期の教材として、中学校の愛でるTeaching Planの市場分析から授業をイメージし、その問題点を特定、具体的な改善策を考案する演習を通して、授業改善能力を育成する目的で、表題の教材を作成して指導。この教材は、現職教員向けの単著『成長する英語教師』(大修館書店、2011)の第3章にも収録し、その後も毎年改良を加えて実践している。

2年時「基礎研究」の教員養成のための教材開発：「英語授業基礎知識・技能トレーニング」	2011年 4月 1日 ～2012年 3月31日	2年時の学科ゼミ「基礎研究」前期の教材として表題の教材全10章（1. 指導の鉄則：レディネスを作る、2. Warm-up、3. クラスルーム・イングリッシュとTeacher Talk、4. Model Reading:教師の範読、5. 教科書の教材研究、6. 新文法事項の口頭導入、7. 教科書本文の口頭導入、8. 教えるための語法・文法理解、9. 学習活動と言語活動を創る、10. 授業を構想する：授業過程と指導案の基本モデル）を作成して指導。この教材は、現職教員向けの単著『成長する英語教師』（大修館書店、2011）の第2章にも収録し、その後も毎年改良を加えて実践している。			
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
教員免許状更新講習「中・高英語科」コーディネーター、講師	2008年 8月 ～現在に至る	2008年度の試行講習実施、及び2009年度の本実施以来「コミュニケーション能力育成のための授業設計と指導」をテーマとした中高英語科教員対象の教員免許状更新講習（3日間18時間）を企画し、久保野雅史准教授とともに講師を担当している。（2010年度のみ大学として休止を決定。）			
神奈川大学大学院外国語学研究科「英語教育トライアル・コース」	2010年 7月24日 ～2010年12月26日	7/24, 25, 8/7, 8, 12/26(13:00-17:00)の全4日間12時間、久保野雅史准教授と共に現職教員を主とした大学院進学希望者に対して無料体験講座を開講した。			
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
小学校英語教育の展開—よりよい英語活動への提言	共著	2010年 6月	(研究社)	樋口忠彦・大城賢・國方太司・高橋一幸 共編著	297頁
成長する英語教師—プロの教師の初伝から奥伝まで	単著	2011年11月	(東京：大修館書店)		255頁
論文					

英語教育時評： Attitude or/and Skill?! 小学校外国語 活動の指導を考える	単著	2010年 5月	『英語教育』（大修館 書店） 59(3)		41頁
『英語ノート』をどう 活用するか—その長所 と問題点をふまえて	単著	2010年11月	『英語教育』（大修館書 店） 59(9)		10-12頁
小学校外国語活動指導 者の養成について—指 導者の養成と現職教員 研修	単著	2012年 6月	日本児童英語教育学会（ JASTEC） 『JASTEC 第33回全国大 会 資料集』		21-26頁
授業改善はじめの第一 歩—自分の授業を reflectionしよう！	単著	2012年 9月	『英語教育』 大修館書 店 61(7)		10-12頁
これからの授業改善へ の提言—グローバル時 代を見据えた授業改善 の視点	単著	2013年 8月	英語授業研究学会『第25 回全国大会発表資料集』		43-46頁
その他					
国際教育研究所 第130 回月例研究会		2010年 6月	(東京都)		
英語授業研究学会・関 西支部第21回春季研究 大会		2010年 6月	(大阪市。(大阪教育大 学附属天王寺中・高等学 校))		
授業分析「中学校への 接続も意識した小学校 高学年の英語活動」		2010年 7月	英語授業研究学会 第22 回全国大会		
あしがら英語授業研究 会 設立研修会		2010年 8月	(神奈川県南足柄市)		
平成22年度 長野県中 学校英語教員研修講座		2010年 8月	(長野県総合教育センタ ー)		
平成22年度 島根県中 高英語科教育講座		2010年 9月	(島根県教育センター)		
アクション・リサーチ 全国大会		2010年10月	(神奈川県横浜市)		

研究授業・分析助言「小学校英語活動をふまえた中学校の授業改善」		2010年10月	南足柄市小中一貫教育における授業研究会		
分科会助言「小学校英語の可能性を求めて一小中一貫に向けた高学年の実践」、「基礎・基本の定着から活用・表現へ高める指導一書くことを中心とした自己表現活動」		2010年11月	第60回全国英語教育研究大会（全英連神奈川大会）		
第60回全国英語教育研究大会（全英連神奈川大会）		2010年11月	（神奈川県横浜市）		
平成22年度 川崎市小学校外国語活動中核教員研修講座		2011年 1月	（神奈川県・川崎市総合教育センター）		
平成22年度 第8回 重点研究 授業研究会		2011年 1月	（横浜市（市立十日市場小学校））		
群馬英語授業研究会 第59回例会件合宿研究会		2011年 2月	（群馬県利根郡水上町）		
分科会提案「『英語ノート』の創造的な活用法と教材開発ー『英語ノート』の長所と短所を踏まえて」		2011年 6月	日本児童英語教育学会（JASTEC）第32回全国大会		
平成23年度 長野県中学校英語教員研修講座		2011年 7月	（長野県塩尻市（長野県総合教育センター））		
英語授業研究学会・関西支部第200回記念例会		2011年 7月	（大阪教育大学附属天王寺中・高等学校）		

シンポジウム「これからの英語授業を展望する—新学習指導要領と現場の課題を踏まえて」	単著	2011年 8月	英語授業研究学会 第23回全国大会 英語授業研究学会 第23回全国大会発表資料集		
平成23年度 小田原市小学校教育研究会・外国語活動研究部会		2011年 8月	(神奈川県小田原市(城北タウンセンター・大ホール))		
平成23年度 川崎市立長尾小学校・外国語活動夏季研修会		2011年 8月	(神奈川県川崎市(市立長尾小学校))		
平成23年度 島根県中高英語科教育講座		2011年 9月	(島根県松江市(島根県教育センター))		
平成23年度 川崎市小学校教育研究会研修会		2011年 9月	(神奈川県 川崎市教育会館)		
千葉大学英語教育学会 第8回研究大会		2011年10月	(千葉大学(西千葉キャンパス))		
研究授業分析・助言「小学校外国語活動を踏まえた中学校の授業—到達点を高めるために」		2011年10月	南足柄市小中一貫教育における授業研究会		
第46回広島県中学校英語教育研究大会		2011年10月	(広島県三次市文化会館)		
関西外国語大学 大学院・英語教育学リレー講義		2011年10月	(大阪府枚方市(関西外国語大学・中宮キャンパス))		
シンポジウム「教育ARネットワークの役割とその可能性」		2011年11月	日本教育アクションリサーチ・ネットワーク(jeARn) 第1回全国大会		
英語授業研究学会 第175回例会(新春講演会)		2012年 1月	(神奈川大学)		
研究授業・分析助言「小学校5年生:担任が進める外国語活動の授業」		2012年 2月	JASTEC関東甲信越支部研究大会		

筑波大学附属小学校 初等教育研修会		2012年 2月	(東京都文京区(筑波大 学学校教育部))		
研究授業・分析助言「 中2：発信力を育てる 授業づくり」		2012年 3月	英語授業研究学会・関東 支部 第176回例会		
群馬英語授業研究会 第64回例会兼合宿研修 会		2012年 3月	(群馬県利根郡水上町)		
課題別分科会提案「小 学校外国語活動指導者 の養成について―指導 者の養成と現職教員研 修」	単著	2012年 6月	日本児童英語教育学会(JASTEC) 第33回全国大会		
「中学校英語授業改善 の視点」平成24年度 長野県中学校英語教員 研修講座		2012年 7月	(長野県総合教育センタ ー)		
「4技能を高総合的に 指導し、自己表現力を 高める工夫」平成24年 度 茅ヶ崎・寒川地区 中学校英語教育講演会		2012年 8月	(神奈川県茅ヶ崎市立浜 須賀中学校)		
「よりコミュニカティ ブな授業をめざして」 平成24年度 福井県中 学校英語科研修講座		2012年 8月	(福井県福井市(福井県 教育研究所))		
「中学校英語教育の現 状と課題を知る―南足 柄市の小中連携を深め るもうひとつの視座」 平成24年度 南足柄市 教育研究会・小中英語 部会		2012年 8月	(神奈川県 南足柄市中 部公民館)		
研究授業分析「作品を 通して、心を耕す」		2012年 8月	英語授業研究学会・第24 回全国大会		

「コミュニケーション能力に資する教科書題材と文法指導のあり方」他、平成24年度 島根県中・高英語科教育講座		2012年 9月	(島根県松江市(島根県教育センター))		
講演「生徒の英語学力の現状と授業改善の視点」・「コミュニケーション能力に資する教科書題材と文法指導のあり方」		2012年 9月	平成24年度 島根県中・高英語科教育講座		
シンポジウム提案「大学における英語教員養成のあり方—現状の課題と改善へのアクションを考える」		2012年10月	日本教育アクションリサーチ・ネットワーク(jeARn) 第2回全国大会		
「生徒の英語学力の現状と授業改善の視点」平成24年度 千代田区教育会英語部研修会		2013年 1月	(東京都千代田区立麴町中学校)		
研究授業・分析助言「小学校「外国語活動」の学習内容と中1 入門期指導の連結を考える」		2013年 2月	英授研関東支部185回例会		
「定冠詞の用法と教科書における取扱い」群馬英語授業研究会 第65回例会県合宿研修会		2013年 3月	(群馬県みなかみ市(去来荘))		
「定冠詞の指導—なぜ大学生になってもわからないのか?新教科書分析からの警鐘」英語授業研究会関西支部第216回例会		2013年 4月	(大阪教育大学附属天王寺中・高等学校)		

「英語教師の Professional Development」平成25年度 岩手県中学校英語研修会		2013年 5月	(岩手県立生涯学習推進センター)		
講演「定冠詞の指導—なぜ大学生になってもわからないのか？新教科書分析からの警鐘」		2013年 5月	英語授業研究学会 関東支部 第187回例会		
「Teaching English through Englishの意義t授業改善の視点」2013年度 神奈川県高等学校教科研究会・英語部会サマーワークショップ		2013年 8月	(かながわ県民活動サポートセンター)		
「これからの授業改善への提言—グローバル時代を見据えた授業改善の視点」英語授業研究学会 第25回全国大会		2013年 8月	(東大阪市 (大阪商業大学))		
講演「コミュニケーションにつなげる文法指導—導入から活動へ」		2013年 8月	英語授業研究学会・第18回英語授業サマーセミナー		
「小学校外国語活動と中学校英語教育の接続」2013年度 東京都港区中学校教育研究会・英語研究部会		2013年 9月	(港区立港南中学校)		
研究授業分析助言「中1: 言語活動と関連づけた文法指導 —Whoseの疑問文の導入」		2013年11月	英語授業研究学会・関東支部第19回秋季研究大会		

平成25年度 川崎市小学校外国語活動中核教員研修講座		2014年 1月	(川崎市総合教育センター)		
研究授業分析助言(初任者研修)「帰納的アプローチによる文法事項の効果的導入法ー受動態」		2014年 3月	英語授業研究会・関東支部第194回例会		
平成26年度 川崎市小学校外国語活動中核教員研修講座	単独	2014年 4月	(川崎市総合教育センター)		
英語教師の Professional Development ——教わった通りに教えること／慣れ親しんだ教え方から脱却するためのARのすすめ	単独	2014年 7月	横浜アクションリサーチの会 (ARCY) 7月例会(横浜市(神奈川大学))		
学力調査もふまえた英語授業改善と言語活動高度化の視点ー成長する英語教師をめざして	単独	2014年 8月	上越英語教育学会 第18回大会(新潟県上越市(上越教育大学))		
小、中、高、大の連携を深めるために何が可能か	単独	2014年11月	日本教育アクションリサーチ・ネットワーク 第4回全国大会(山形県山形市(山形大学附属中学校))		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1985年 5月～現在に至る		日本児童英語教育学会 (JASTEC) (国内学会) 会員			
1987年 4月～現在に至る		(財) 語学教育研究所(国内学会) 会員			
1989年 4月～現在に至る		英語授業研究会(国内学会) 会員			
1991年 8月～現在に至る		英語授業研究会(国内学会) 理事			
1995年 4月～現在に至る		個人研究 コミュニケーション能力を育成する英語教授法			
1995年 4月～現在に至る		大学英語教育学会(国内学会) 会員			
1996年 4月～現在に至る		(財) 語学教育研究所(国内学会) 評議員			

1998年 4月～現在に至る	(財) 語学教育研究所(国内学会)パーマー賞選考委員
2000年 6月～現在に至る	日本児童英語教育学会 (JASTEC) (国内学会)理事
2005年 4月～現在に至る	横浜市立斎藤分小学校拠点研究－英語活動「ハローワールド」 支援 指導講師
2008年 4月～現在に至る	個人研究 英語教師教育 (教員養成・現職教員研修の目的と内容)
2008年 8月～現在に至る	教員免許状更新講習 (中・高英語科) コーディネーター、講師
2009年 4月～2011年11月	個人研究 英語教員養成シラバスとCan-do Listの作成
2009年 8月～現在に至る	英語授業研究学会(国内学会)会長
2010年10月～現在に至る	日本教育アクションリサーチ・ネットワーク(国内学会)副代表
2010年10月～現在に至る	日本教育アクションリサーチ・ネットワーク(国内学会)副代表
2011年 4月～現在に至る	個人研究 現職英語教師教育におけるアクション・リサーチの活用
2011年12月～現在に至る	個人研究 現職教師教育における望ましいメンターの役割

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 教授	氏名 ウイリアム・マコウミ	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
アメリカ人が観た幕末 日本1842-1846 (American Eyewitness Accounts of bakumatsu Japan, 1842-1846)	単著	2011年 3月	神奈川大学人文学研究所 (人文学研究所報 No. 45)		

From Russia with All Due Respect: Reconsidering the Rezanov Mission to Japan	単著	2011年12月	Japan Society Proceedings-London, England (2011 No. 148)		
その他					
Japan Society London (England)		2011年 3月	(London, England)		
Differences in experiencing grief (悲しみを表す違い)	単著	2011年 6月	The Japan Times ジャパンタイムズ 2011. 6. 30		
The real power when Edo opened (江戸が開港した時の本当の権力)	単著	2011年 8月	The Japan Times ジャパンタイムズ 2011. 8. 21		
言葉と文化		2011年 8月	(神奈川大学オープンキャンパス)		
言葉と文化		2012年 6月	(神奈川大学 高校生向けの講義)		
言葉と文化		2012年 8月	(神奈川大学オープンキャンパス)		
在日 (アジア) ロシア人研究会		2013年 4月	(青山学院大学 (東京))		

III 学会等および社会における主な活動

年月	内容
	個人研究 幕末時代の日本開港
	個人研究 文化の継続と変化の理論
1990年11月～現在に至る	日本教育大学協会九州地区外国語部門研究協議会
1993年 8月～現在に至る	『Learning Languages : a Polyglot' s Perspective』小田原.L10J 英語教師のための国際夏期研修にて
1993年 8月～現在に至る	『The Current State of Student Services at Foreign Universities』(日本語)長崎、全九州大学生サービス課? 協会長崎大会にて
1995年 7月～現在に至る	『異文化比較研究1』長崎、文部省 長崎県教育委員会、長崎県免許法認定講習にて。3日間全12時間
2000年 4月～現在に至る	個人研究 日本人と非日本人の相互観の歴史
2004年 2月～現在に至る	在日 (アジア) ロシア人研究会 委員
2004年 4月～現在に至る	カリフォルニア州立大学卒業生協会 委員

2010年 4月～2011年 3月

神奈川県立外国語学部英語英文学科 文化ウィークの責任者

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 教授	氏名 佐藤 裕美	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
英語読解力向上のための取り組み		2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：基礎演習I, II) 比較的平易な英語で書かれた小説の抜粋を授業で読み、それぞれの作品の続きを学生が自分で読み、定期的に読書報告を提出するよう指導している。英語で書かれた書物を読む機会を増やし、英語読解力を向上させ、また言語や文学についての学問的関心を促す上で効果が得られている。		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
発話と文のモダリティ 一対照研究の視点から	共著	2011年 3月	(ひつじ書房)	武内道子、佐藤裕美共編	
論文					
日本語条件節における 時制、モダリティ、話 者	単著	2011年 3月	『発話と文のモダリ ティ一対照研究の視 点から』 ひつじ書房		159-183頁

The Speaker, the Subject and Different Types of Embedded Clauses in Japanese	単著	2011年 9月	神奈川大学人文研究・神奈川大学人文学会 (174)		115-155頁
Attitudes, Modals, and Two Types of Complementizers in Japanese	単著	2012年 3月	『言語科学研究』神田外語大学大学院紀要 (特別号 平成21年~23年度 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B))報告書)		243-253頁
On Some Differences between Restrictive and Nonrestrictive Relative Clauses and the Parallelism between Head-Internal and Head-External Relative Clauses in Japanese	単著	2012年 3月	『神奈川大学言語研究』 (34)		1-33頁
Modals, Attitudes, and Different Positions for Complementizers in Japanese (査読付)	単著	2014年10月	On Peripheries, Hitsuzi Linguistics in English, Hitsuzi Syobo Publishing 23		299-326頁
その他					
英語法助動詞の諸相と英語教育 中高生は、法助動詞をどこまで学んでいるのか？ ～学習指導要領と検定教科書の分析による実態報告～	共著	2010年 7月	モダリティプロジェクトワークショップ2010 神奈川大学共同研究奨励助成プロジェクト	久保野雅史 佐藤裕美	

Clausal Periphery and Different Types of Complementizers in Japanese	単著	2012年 3月	Workshop "On peripheries"		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1995年11月～現在に至る		日本英語学会(国内学会)会員			
2002年 5月～現在に至る		英語語法文法学会(国内学会)会員			
2004年 4月～現在に至る		個人研究 句構造と機能素性			
2004年 4月～現在に至る		個人研究 比較統語論			
2008年 4月～現在に至る		個人研究 統語構造とテンス、アスペクト、法性			
2008年 4月～現在に至る		機関内共同研究 (対照言語学研究会)統語的アプローチと語用論的アプローチによるモダリティの対照研究			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 教授	氏名 村井 まや子	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
Eラーニング教材の採用	2005年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：基礎演習) 英語英文学科全体の取り組みとして、1年次生が全員履修する「基礎演習」の授業において、授業時間外での自習の習慣をつけるためにEラーニング教材を毎週課題とし、各学生の自習状況を随時確認して指導に役立てた。	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2005年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：基礎演習、英作文、英米文学演習、英語会話、英語、英米文学概論、英米文学購読演習) 前年度の授業評価アンケート評価を受け、内容をわかりやすく伝えるため、パワーポイント、映像資料などの補助教材を使用するなど、授業運営の改善を行った。	
課外学習としての美術・映画・演劇鑑賞	2008年 9月22日 ～現在に至る	(授業科目：基礎研究、専門研究) 授業で学んだ文学作品にかかわりのある美術・映画・演劇作品を、実際に美術館や映画館に出かけて鑑賞することで、イギリス文学・文化についての多角的な理解を深めた。	
2 作成した教科書、教材			
「卒業研究」の教材作成	2005年 4月 1日 ～現在に至る	イギリスの小説の読解と批評のしかたを学ぶための教材を、毎回自分で作成して配布した。	
「基礎研究」の教材作成	2007年 4月 1日 ～現在に至る	イギリスの小説の読解と批評のしかたを学ぶための教材を、毎回自分で作成して配布した。	
「専門研究」の教材作成	2008年 4月 1日 ～現在に至る	イギリスの小説の読解と批評のしかたを学ぶための教材を、毎回自分で作成して配布した。	
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
2005年授業評価アンケート結果	2005年 2月28日 ～現在に至る	(授業科目：英語(文化)) 学生による授業評価アンケートにおいて、「授業の内容に興味を持てましたか」、「教員の話し方は、明瞭で学生をひきつけるものでしたか」、「この授業は総合的にみて満足の数値でしたか」の3つの項目の評価が、全学・学部・学科の平均を大きく上回る4.8であった。	
4 実務の経験を有する者についての特記事項			
なし			

5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
Literary Fairy Tales by Women Writers: Madame d'Aulnoy, Anne Thackeray Ritchie, Mary de Morgan		2010年10月	(Eureka Press)		
Anti-Tales: The Uses of Disenchantment (査読付)	共著	2011年 5月	(Cambridge Scholars Publishing)	Catriona McAra, David Calvin 他25名	152-162頁
Postmodern Reinterpretations of Fairy Tales: How Applying New Methods Generates New Meanings (査読付)	共著	2011年 5月	(Edwin Mellen Press)	Anna Kerchy 他25名	145-162頁
〈悪女〉と〈良女〉の 身体表象	共著	2012年 3月	(青弓社)	笠間千浪 他4名	243-266頁
New Fairy Tales: Essays and Stories	共著	2013年 9月	(Unlocking Press)	John Patrick Pazdziora, Defne Çizakça編	281-97頁
Grimms' Tales around the Globe: The Dynamics of Their International Reception	共著	2014年 5月	(Wayne State University Press)	Vanessa Joosen, Gillian Lathey, Ruth Bottigheimer 他 。	153-176頁
論文					

Voicing Authenticities through Translation: Framing Strategies in the Multicultural Fairy Tale Collections of Andrew Lang and Angela Carter (査読付)	単著	2012年 9月	Synthesis 4		
The Princess, the Witch, and the Fireside: Yanagi Miwa's Uncanny Restaging of Fairy Tales (査読付)	単著	2013年10月	Marvels and Tales: Journal of Fairy-Tale Studies (Wayne State University Press) 27(2)		234-53頁
その他					
“In the Realm of the Senses: Tomoko Konoike's Visual Recasting of 'Little Red Riding Hood,' ” Anti-Tales: The Uses of Disenchantment		2010年 8月	(University of Glasgow (イギリス))		
“Comparative Literature in the Age of Globalisation,” 日本カナダ教育学会年次大会		2010年 9月	(カナダ大使館 (東京))		
The World Beyond the Six Senses: Midori Osaki's Shoyo Novels	単著	2010年11月	SCHOOL: Women and Japanese Culture (Tiny Person) 2		15-16頁

In the Midst of Metamorphosis: Yoko Tawada' s "The Bridegroom Was a Dog", The Folklore Society, The Sussex Centre for Folklore 共催国際学会		2012年 4月	(イギリス、チチェスター大学)		
(書評) Becoming Modern Women: Love and Female Identity in Prewar Japanese Literature and Culture、Michiko Suzuki著	単著	2012年 6月	Asian Studies Review 36(2)		288-89頁
"Bluebeard" in Contemporary Japanese Fiction: Yoko Ogawa' s Hotel Iris"、"The Fairy Tale Vanguard" 国際学会		2012年 8月	(ベルギー、アントワープ大学)		
(書評) Girl Reading Girl in Japan、Tomoko Aoyama, Barbara Hartley編著	単著	2013年 3月	Asian Studies Review 37(1)		100-02頁
The Princess, the Witch, and the Fireside: Miwa Yanagi' s Uncanny Visualisation of Fairy Tales、国際比較文学学会大会		2013年 7月	(フランス、ソルボンヌ大学)		

(劇評) “Shojo to akuma to fushagoya (The Girl without Hands) and Honmono no fianse (The True Bride)”、Olivier Py 作、Satoshi Miyagi 演出	単著	2013年10月	Marvels and Tales: Journal of Fairy-Tale Studies (Wayne State University Press) 27(2)		344-46頁
(書評) A Card from Angela Carter、Susannah Clapp 著	単著	2014年10月	Marvels and Tales: Journal of Fairy-Tale Studies (Wayne State University Press) 28(1)		206-208頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1998年 1月～現在に至る		イギリス比較文学会(国際学会)会員			
1998年 1月～現在に至る		国際比較文学会(国際学会)会員			
1998年 1月～現在に至る		日本英文学会(国内学会)会員			
2005年 1月～現在に至る		テキスト研究学会(国内学会)会員			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 現代文学・美術の中のおとぎ話			
2006年 1月～現在に至る		テキスト研究学会(国内学会)紀要査読委員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 准教授	氏名 久保野 雅史	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育方法の実践例			
学生による授業評価アンケート結果の活用	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(英文法演習) 学校文法と英語学の接続。高校までに学んできた学校文法と英語学の落差を埋めるために、自主教材を用意して説明方法や用例の提示を工夫した。	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：英作文) ピア・コレクションによる気づきを生かしたライティング指導。下書きしてきた文章を交換してコメントを記入してもらい、それを生かして推敲する。自分では気づかない文法・語法の誤り等に気づく力の向上に効果があった。	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(LL演習) 音変化に焦点を当てたリスニング指導。読めば分かる語句であっても音声変化があると聞き取れない。そこで、音変化に焦点化した自主教材を作成してディクテーション練習を行い、聞き取り能力の向上を目指した。	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(英語教育学概論) 学校現場と応用言語学の接続。中学校や高校で使用されている検定教科書や、実際のテスト問題の分析を通して、英語教育について実践的に学ぶために自主教材を作成した。理論と実践を一体化させる上で効果があった。	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：英語科教育法III) 卒業生による授業評価の記述アンケート内容を参考に、マイクロティーチングの事前事後指導の内容を改善した。	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(基礎演習) 再履修者を対象とした授業だったので、各自の学習履歴を面接等で把握し、個別に課題を与えることで能力の伸長を図った。	
学生による授業評価アンケート結果の活用	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(資格検定英語) 授業外での学習を促進するために、毎時間復習課題を与え、授業冒頭の小テストを通して定着を確認した。	
2 作成した教科書、教材			
なし			
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
2008年度前期授業評価アンケート結果	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(資格検定英語) 「教員に熱意を感じた」という項目で高い評価を得た。	

2008年度前期授業評価アンケート結果	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(英作文演習) 「教員に熱意を感じた」という項目で高い評価を得た。			
2008年度前期授業評価アンケート結果	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(LL演習) 「教員に熱意を感じた」という項目で高い評価を得た。			
2008年度前期授業評価アンケート結果	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(英文法演習) 「教員に熱意を感じた」という項目で高い評価を得た。			
2008年度前期授業評価アンケート結果	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(基礎演習) 「教員に熱意を感じた」という項目で高い評価を得た。			
2008年度前期授業評価アンケート結果	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(英語科教育法) 「教員に熱意を感じた」という項目で高い評価を得た。			
2008年度後期授業評価アンケート結果	2008年 4月 1日 ～現在に至る	(英語教育学概論) 「教員に熱意を感じた」という項目で極めて高い評価を得た。			
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
公立小学校の英語活動支援	2008年 4月 1日 ～現在に至る	公立小学校の英語活動支援。横浜市立南神大寺小学校の英語活動を支援するため、授業を見て指導・助言を行う。			
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
高等学校 新学習指導 要領の展開 (外国語科 英語編)	共著	2010年 4月	(明治図書出版)	岡部幸枝・松本茂・久保野雅史 他	
英語授業ハンドブック 高校編	共著	2012年 4月	(大修館書店)	金谷憲、阿野幸一、久保野雅史 、高山芳樹	
学習英文法を見直した い	共著	2012年 7月	(研究社)	大津由紀雄	
論文					
なし					
その他					

高等学校学習指導要領「解説」を読み解く	単独	2010年 5月	英語授業研究学会 関東支部第162回例会(筑波大学附属駒場中・高校)		
新学習指導要領におけるコミュニケーションに対する態度や能力の育成について考える	共同	2011年 6月	英語授業研究学会 関西支部第22回春季研究大会(大阪教育大学附属天王寺中・高校)		
中高の接続を意識した文法指導	単独	2011年 8月	ELEC同友会英語教育学会 サマーカーショップ(東京学芸大学附属竹早中学校)		
新指導要領を踏まえた授業設計	単独	2011年 8月	英語授業研究学会 第16回 英語授業サマーセミナー(埼玉県民活動総合センター)		
訳読指導の現状検証	共同	2012年 1月	日本英文学会 関東支部冬季大会(早稲田大学)		
コミュニケーションを支える文法指導	共同	2012年11月	英語授業研究学会 関西支部第24回秋季研究大会(大阪商業大学)		
新学習指導要領と中高の接続について考える	共同	2013年 4月	英語授業研究学会 関東支部第17回春季研究大会(神奈川大学)		
「英語で授業」のDos & Don'ts	単独	2013年 5月	神奈川新英語教育研究会 春の一日研修会(大倉山記念館)		
コミュニケーション能力育成につながる文法指導とは	共同	2013年 8月	英語授業研究学会 第20回全国大会(大阪商業大学)		
大学受験を突破するコミュにカティブな授業	単独	2013年 8月	英語授業研究学会 第18回 英語授業サマーセミナー(国立女性教育会館)		
音読指導のあの手この手	単独	2014年 1月	英語授業研究学会 関東支部第190回例会(筑波大学附属駒場中・高校)		

教科書でのリーディング力はこんなに伸びる	単独	2014年 3月	ELEC同友会英語教育学会 教科書著者による中高教科書指導法ワークショップ(清泉女子大学)		
音読・暗唱・プレゼンで、大学入試も突破できる！	単独	2014年 4月	英語学習に関する講演会 (神奈川県立大船高校)		
スピーキングテストに向けた、逆算的授業デザイン	単独	2014年 6月	あきた発！英語コミュニケーション能力育成事業 「スピーキングテストについての研究協議会」 (秋田県総合教育センター)		
教科書を使った発信活動で大学入試は突破できる	単独	2014年 6月	英語部会・春季研究協議会(千葉県総合スポーツセンター)		
教科書を生かしたリーディング指導と評価の工夫	単独	2014年 7月	ELEC夏期英語教育研修会 (ELEC英語研修所)		
「英語による授業」を効果的に進めるために	単独	2014年 8月	英語科主任指導力向上研修(中高)(滋賀県総合教育センター)		
スピーキングテストに向けた四技能の統合的育成	単独	2014年 8月	授業づくり(中高)研修 (三重県津庁舎)		
テスト・評価が変われば授業が変わる	単独	2014年 8月	勉強会 in 一戸(一戸町コミュニティセンター)		
教科書を使って「読む・書く」力を伸ばすには	単独	2014年 8月	上越市英語教育講演会(上越市民プラザ)		
教科書を活用した四技能の育成と評価	単独	2014年 8月	英語研究部会 夏期研修会(世田谷区立三宿中学校)		
発信力を強化するための指導と評価の工夫	単独	2014年 8月	埼玉県・英語教育強化推進授業 研究協議会(さいたま市民会館うらわ)		

音調が変われば意味が変わる	単独	2014年 8月	東京言語研究所 教師のためのことばワークショップ(ラボ国際交流センター)		
高校におけるリーディング指導	単独	2014年 8月	ELEC同友会英語教育学会 サマーワークショップ(東京学芸大学附属竹早中学校)		
コミュニケーション能力育成と大学受験指導は両立できる!	単独	2014年 9月	9月例会(那珂福祉センター)		
コミュニケーション能力の育成を目指した書くことの指導	単独	2014年10月	秋季研究会(大月市立猿橋中学校)		
学期末実技テストに向けた逆算的授業デザイン	単独	2014年10月	公開授業・講演会(横浜市立桜丘高校)		
「授業は英語で行うことを基本とする」とは?	単独	2014年11月	授業力向上研修(高校)(栃木県総合教育センター)		
「英語で授業」のDos & Don'ts	単独	2014年11月	学習指導研究会(奈良県立山辺高校)		
中高6年間を見通した、指導と評価の改善	単独	2014年11月	第57回英語教育研究大会(ホテルライフオーツ札幌)		
テストが変われば授業が変わる	単独	2014年12月	外部専門機関と連携した英語指導力向上事業に係る「言語活動と評価を充実させるための研修」(福島県教育センター)		
中高6年間を見通した、指導と評価の改善	単独	2014年12月	英語教育講演会(香川県立高松北高校)		
中高6年間を見通した、指導と評価の改善	単独	2014年12月	第1回英語教育研究会(鳥取県立八頭高校)		
これからの英語教育指導法	単独	2015年 1月	英語教育部会講演会(松戸市立八ヶ崎第二小学校)		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
年月	内容
1987年 6月～現在に至る	(財) 語学教育研究所 会員
1987年 9月～現在に至る	関東甲信越英語教育学会(国内学会) 会員
1989年 4月～現在に至る	英語授業研究学会(国内学会) 会員
1992年11月～現在に至る	世田谷区中学校英語スピーチコンテスト 審査員
1993年10月～現在に至る	英語語法文法学会(国内学会) 会員
1997年 8月～現在に至る	英語授業研究学会(国内学会) 理事
1998年10月～現在に至る	ELEC同友会英語教育学会(国内学会) 会員
1998年10月～現在に至る	ELEC同友会英語教育学会(国内学会) 理事
2004年 4月～現在に至る	(財) 語学教育研究所・外国語教育研究賞選考委員
2006年 4月～現在に至る	長野県総合教育センター 高等学校英語指導力養成講座講師
2006年 9月～現在に至る	島根県教育委員会 中学校・高等学校英語科指導力向上セミナー講師
2008年 4月～2011年 3月	個人研究 学習指導要領(外国語)の変遷
2008年 4月～2013年 3月	個人研究 学習英文法の再構築
2010年 4月 1日～現在に至る	横浜市立サイエンスフロンティア高等学校 スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会 運営指導委員
2010年11月15日～2010年11月16日	第60回全国英語教育研究大会(全英連神奈川大会) パネルディスカッション・モデレーター、大会実行委員会アドバイザー
2012年 4月 1日～2013年 3月31日	三重県・英語力を強化する指導改善の取組 運営指導委員会 運営指導委員
2012年 4月 1日～2013年 3月31日	神奈川県・英語力を強化する指導改善の取組 運営指導委員会 運営指導委員長
2013年 4月～現在に至る	個人研究 戦後英語教育史における高校文法教科書の変遷(研究代表者)
2013年 4月 1日～2014年 3月31日	三重県・英語によるコミュニケーション能力・論理的思考力を強化する指導改善の取組 運営指導委員会 運営指導委員
2013年 4月 1日～2014年 3月31日	神奈川県・英語によるコミュニケーション能力・論理的思考力を強化する指導改善の取組 運営指導委員会 運営指導委員長
2013年11月16日～2013年11月17日	第63回全国英語教育研究大会(全英連東京大会) 中学校分科会発表・指導助言者
2014年 4月 1日～現在に至る	山形の未来をリードする人材育成事業 講師
2014年 4月 1日～現在に至る	山形スピークアウト推進事業 指導委員
2014年 4月 1日～現在に至る	東京都葛飾区立綾瀬中学校 初任者指導 指導助言者
2014年 4月 1日～現在に至る	横浜市立サイエンスフロンティア高等学校 スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会 運営指導委員
2014年 4月 1日～現在に至る	神奈川県・外部専門機関と連携した英語指導力向上事業 運営指導委員会 運営指導委員長

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 准教授	氏名 小松 雅彦	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
音声学基本事典	共著	2011年 8月	(東京：勉誠出版)	城生佰太郎・福盛貴弘・斎藤純 男編	
論文					
Thomas, Erik R. (2011) <i>Sociophonetics: An introduction</i> [Review] (査読付)	単著	2014年12月	English Linguistics(English Linguistics Society of Japan) 31		671-680頁
その他					

(資源提供) 中国語MULTEXTコーパス	単著	2010年 7月	東京：国立情報学研究所 音声資源コンソーシアム		
(口頭発表) 外国人アクセント症候 群とアナルトリーにお けるプロソディ障害の 比較について	共著	2010年 9月	東京音韻論研究会例会, 東京大学.	小松雅彦・大槻美佳・高田美樹 ・会田敏光	
(招待発表) 外国人アクセント症候 群とアナルトリーにお けるプロソディ障害の 音声学的分析の試み	共著	2011年 1月	『上智大学言語学会会報 』25, 79-96. (上智大学 言語学会第25回大会招待 発表, 2010年7月17日)	小松雅彦・大槻美佳・高田美樹 ・会田敏光	
(口頭発表) 意味か音 韻か：伝導失語の治療 に関する一考察	共著	2011年 6月	日本言語聴覚士協会総会 ・日本言語聴覚学会プロ グラム・抄録集 (2011年 6月17-18日、開催中止) 12	小松かおる・大槻美佳・小松雅 彦・諫山幸弘	123頁
(その他) 所員自著紹 介		2012年 3月	人文学研究所報 (神奈川 大学人文学研究所) 47		113-114頁
(研究論文) Prosodic and segmental factors in the perceptual discrimination of the Gyeongsang and Seoul dialects in Korean	共著	2012年 3月	日本学術振興会科学研究 費基盤研究(A)「自律調 和的視点から見た音韻類 型のモデル」研究成果報 告書	<u>Komatsu, M.</u> , & Son, B-K.	pp. 29-38頁
(寄稿) ロンドン大学 夏季英語音声学コース に参加して	単著	2013年 2月	言語研究センター NEWS LETTER (38)		3-5頁
(報告) 音響機器等を 利用した英語音声教育 のための予備的調査	共著	2014年 2月	言語研究センター NEWS LETTER (39)	小松雅彦・松村文芳	4-5頁

(報告)音響機器等を利用した英語音声教育のための予備的調査(継続)	共著	2015年 1月	言語研究センター NEWS LETTER (40)	小松雅彦・松村文芳	4-5頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1983年 4月～2012年 3月		日本言語学会(国内学会)会員			
1984年 4月～2012年 3月		日本英語学会(国内学会)会員			
1986年 4月～現在に至る		上智大学言語学会(国内学会)会員			
1988年 4月～2012年 3月		人工知能学会(国内学会)会員			
1991年 4月～現在に至る		日本音声学会(国内学会)会員			
1992年 4月～現在に至る		国語学会(2004年1月 日本語学会に改称) (国内学会)会員			
1992年 9月～2012年 8月		日本音声言語医学会(国内学会)会員			
1995年 4月～2012年 3月		映画英語教育学会(1994年度発起人) (国内学会)会員			
1997年 4月～現在に至る		日本音韻論学会(国内学会)会員			
1999年 1月～現在に至る		個人研究 韻律の音響的特徴の対照研究			
1999年 4月～現在に至る		日本音響学会(国内学会)会員			
1999年 9月～現在に至る		International Speech Communication Association (2007年7月～2010年8月中断) (国際学会)会員			
2001年 1月～現在に至る		Acoustical Society of America(国際学会)準会員			
2006年 4月～2012年 3月		大学英語教育学会(国内学会)会員			
2007年 4月～2011年 3月		日本音韻論学会(国内学会)理事			
2008年 4月～2012年 3月		科学研究費補助金 49,140,000円 「日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(A) 20242010」自律調和的視点から見た音韻類型のモデル、研究代表者：原口庄輔(研究分担者)			
2009年 9月～2012年 8月		日本高次脳機能障害学会(国内学会)会員			
2013年 4月～2014年 3月		その他の補助金・助成金(神奈川大学言語研究センター)100,000円 「共同研究」音響機器等を利用した英語音声教育のための予備的調査(研究代表者)			
2013年 4月～現在に至る		日本音声学会(国内学会)評議員			
2014年 4月～2015年 3月		その他の補助金・助成金(神奈川大学言語研究センター)100,000円 「共同研究」音響機器等を利用した英語音声教育のための予備的調査(継続)(研究代表者)			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 助教	氏名 相原 昌彦	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2006年 1月～現在に至る		アメリカ言語学会(国内学会)会員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 准教授	氏名 梅崎 和代	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『流動する〈黒人〉コミュニティ—アメリカ史を問う』	共著	2012年 2月	(彩流社)	樋口映美編	
『越境する一九六〇年代—米国・日本・西欧の国際比較』	共著	2012年 5月	(彩流社)	油井大三郎編	
Reinventing Citizenship: Black Los Angeles, Korean Kawasaki, and Community Participation	単著	2014年 4月	(Minneapolis: University of Minnesota Press)		

論文					
“Jobs or Income Now!": Work, Welfare, and Citizenship in Johnnie Tillmon's Struggles for Welfare Rights”	単著	2011年	The Japanese Journal of American Studies 22		151-170頁
その他					
「ジョンソン政権期の公民権政策関連史料」	単著	2011年 3月	『1960年代の米国と西欧における社会運動関係1次史料とその解題』		
「アメリカの社会とポピュラーカルチャー」		2011年10月	(立教大学アメリカ研究所)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1998年 4月～現在に至る		日本アメリカ史学会 (旧アメリカ史研究会) (国内学会) 会員			
2000年 4月～現在に至る		アメリカ学会(国内学会) 会員			
2001年～現在に至る		個人研究 市民権をめぐる国境を越えた闘争－黒人解放運動と在日運動の交差点を探る			
2001年 9月～現在に至る		American Historical Association(国際学会) 会員			
2001年 9月～現在に至る		American Studies Association(国内学会) 会員			
2004年～現在に至る		個人研究 アメリカの福祉権運動と人種、ジェンダー			
2006年 3月～現在に至る		同時代史学会(国内学会) 運営委員			
2008年 4月～現在に至る		日本西洋史学会(国内学会) 会員			
2009年 4月～現在に至る		歴史学研究会(国内学会) 会員			
2009年 4月～2011年 3月		科学研究費補助金 28,600,000円 「基盤研究 (A)」 1960年代の米国における文化変容とその越境に関する総合的研究 (研究分担者)			
2011年 9月～現在に至る		日本アメリカ史学会 (旧アメリカ史研究会) (国内学会) 編集委員			
2012年 9月～現在に至る		Organization of American Historians(国際学会) 会員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 教授	氏名 郷 健治	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Biblical Echoes in the 'Roar' of 'Lions' in <i>The Tempest</i> , II. i. 313-14 (査読付)	単著	2010年 9月	Notes & Queries(Oxford University Press) 57(3)		405-408頁

Montaigne's "Cannibals" and <i>The Tempest</i> Revisited (査読付)	単著	2012年 8月	Studies in Philology(University of North Carolina Press) 109(4)		455-473頁
Bottom's Dream Revisited (査読付)	単著	2015年 3月	Notes & Queries(Oxford University Press) 62(1)		98-103頁
その他					
シェイクスピアとダンスと『ソネット集』	単著	2011年 9月	「Shakespeare THE SONNETS」プログラム(新国立劇場(東京))		
「シェイクスピアとW.H.氏とウィリアム・ハーバート」第84回日本英文学会全国大会		2012年 5月	(専修大学)		
シェイクスピアとW.H.氏とウィリアム・ハーバート	単独	2012年 5月	第84回日本英文学会全国大会(専修大学)		
<i>SHAKE-SPEARES SONNETS</i> の1609年初版Quartoの出版事情再考	共同	2012年10月	第51回シェイクスピア学会(秋田大学)	高田康成(東京大学)、阿部曜子(津田塾大学)、大矢玲子(慶応大学)、廣田篤彦(京都大学)	
セミナー:「『ソネット』解釈の展望」のコーディネーターを務める。高田康成教授(東京大学)、阿部曜子准教授(津田塾大学)、大矢玲子教授(慶応大学)、廣田篤彦准教授(京都大学)と5名で共同セミナーを開催。		2012年10月	(秋田大学)		

Any Thought on Islamic Fashion? : The Birth of 'Fashion', Shakespeare, and the <i>Books of Homilies</i>	単独	2013年 5月	Symposium in Celebration of an Extraordinary Career: Andras Hamori, Cleveland E. Dodge Professor of Near Eastern Studies, Princeton University (Princeton, N. J., USA)		
'Any Thought on Islamic Fashion? – The Birth of "Fashion" , Shakespeare, and the Books of Homilies' Symposium in Celebration of an Extraordinary Career: Andras Hamori, Cleveland E. Dodge Professor of Near Eastern Studies		2013年 5月	(プリンストン大学)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1994年 4月～現在に至る		日本英文学会 会員			
1994年 4月～現在に至る		日本英文学会(国内学会) 会員			
2004年 4月～現在に至る		日本シェイクスピア協会 会員			
2005年 4月～現在に至る		日本シェイクスピア協会(国内学会) 会員			
2008年 4月～2011年 3月		科学研究費補助金 (個人研究) 4,550,000円 「基盤研究 (C)」 イングランド国教会の宗教的言説とシェイクスピア (研究代表者)			
2010年 4月～現在に至る		歌舞伎学会 会員			
2010年 4月～現在に至る		歌舞伎学会(国内学会) 会員			
2011年 4月～2014年 3月		科学研究費補助金 (個人研究) 3,900,000円 「基盤研究 (C)」 イングランド国教会『欽定説教集』とシェイクスピア (研究代表者)			

2014年 5月～現在に至る

The International Shakespeare Association(国際学会)会員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科	職名 外国人特任准教授	氏名 バーナード ウィルソン	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
Cultural Connection:The English Language in Literature and Translation.	共著	2011年 3月	(Open University of Japan Press, Tokyo(195pp))		
論文					
なし					
その他					
なし					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
年月	内容
2005年 7月～2011年 6月	香港大学文学部英文学科 名誉講師
2005年 8月～現在に至る	Asian Australian Studies Research Network:Australian National University
2009年 1月～現在に至る	IIUM Journal of English Language and Leterature-International Islamic University of Malaysia 国際顧問 : Asiatic
2009年 6月～現在に至る	Member:American Comparative Literature Association 会員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 外国語学部英語英文学科		職名 特任助教	氏名 メイ ビクトリア セリノ ソリス		大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Learning Vocabulary Through an Extensive Reading Program	単著	2011年 6月	Temple University Japan Studies in Applied Linguistics, 68		82-87頁
Comparatives, Equativ es and Superlatives	単著	2011年11月	Temple University Japan Studies in Applied Linguistics, 71		148-162頁

Bamboo Can Do:A Reading Lesson Plan	単著	2012年 8月	Temple University Japan Studies in Applied Linguistics		
Learning Not Just to Write but to Write with Pleasure:A Paper on the topic of Journal Writing	単著	2012年 8月	Temple University Japan Studies in Applied Linguistics		
その他					
なし					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
		なし			